

## 大阪府

# 箕面市

### だれもが住みやすいまち 「みのお」を目指して



箕面市人権文化部人権国際課・(財)箕面市国際交流協会

### 1. 箕面市の概要

箕面市は、大阪府の北部に位置し、面積約48km<sup>2</sup>、人口約12万9,000人の住宅都市です。「明治の森箕面国定公園」には日本の滝百選に選ばれた「箕面大滝」があり、また、府内で唯一の実生ゆずが生産されるなど、良好な自然環境にも恵まれており、毎年多くの観光客が癒しや安らぎを求めて訪れます。ゆずをモチーフにしたマスコット「たきのみちゆずる」も本市の良さを全国にPRすべく日々活動しています。



たきのみちゆずる

ハット市においても、クエルナバカ市においても、両市でそれぞれ交流団体が結成されるなど、市民が主体となって国際交流活動を実施しています。

### 3. 多文化共生への取り組み

箕面市には、全人口の約1.7%にあたる約2,200人の外国人市民が暮らしています。市内や周辺地域に、大学や多くの学術機関があることから、80カ国以上にも及ぶ多様な国籍の市民が暮らしていることが大きな特徴となっています。

今後も外国人市民の増加が予想されるため、箕面市では『互いに認めあい、だれもが住みやすいまち「みのお」』を目指し、さまざまな取り組みを進めています。

外国人市民が、ことばを理由に生活面において弊害が生じないように、(財)箕面市国際交流協会と協働しながら、さまざまな媒体で情報提供を実施しています。コミュニティ放送においては、5言語(英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、タイ語)で生活に必要な情報を提供したり、広報紙の概要版として「みのおポスト」を3言語(英語、中国語、韓国・朝鮮語)およびやさしい日本語で発行しています。多言語による相談も5言語(英語、中国語、韓国・朝鮮語、ロシア語、インドネシア語)で実施しており、情報提供から生活相談まで幅広く対応しています。

またNPO団体「みのお外国人医療サポートネ

### 2. 国際交流事業

箕面市はニュージーランド・ハット市と国際協力都市提携(1995年)を、メキシコ合衆国・クエルナバカ市と国際友好都市提携(2003年)をそれぞれ結んでいます。

ハット市には、日本とニュージーランド間の国際交流拠点として、1999年に「ハット箕面友好ハウス」が整備されました。日本文化を紹介するイベント等の実施や、ニュージーランドの訪問者への宿泊施設として利用されています。

また、クエルナバカ市とは、市内にあるモレロス大学から学生を日本語研修生として約1カ月間受け入れて、ホームステイなどを通して相互交流を図っています。



外国人市民への保健・医療サポート  
セミナー 2010

ット」と協働して、市内病院に医療通訳を派遣したり、箕面市立病院においては、通訳者（英語・週2回、中国語・週1回）を常駐させ、外国人市民の医療に対する不安の軽減に努めています。

保健・医療分野においては、庁内の関係課や関係団体間で横断的な情報共有を図るため、定期的に「医療事務連絡会」を開催し、また年に1回、この事務連絡会の参加団体で形成された実行委員会で、外国人市民への保健・医療サービスの向上を目指しセミナーを実施しています。

これら以外においても、市民と行政、箕面市国際交流協会が協力し合いながら、本市の国際化に向けた取り組みを行っています。

#### 4. (財)箕面市国際交流協会

1992年に設立された(財)箕面市国際交流協会（以下、国際交流協会）は、地域の国際化拠点として、日本語教室や外国にルーツを持つ子どものための居場所づくり、多言語による生活相談などを行っています。こうした国際交流事業は国籍やルーツを問わず10代から80代まで、120名あまりの市民ボランティアの活躍によって支えられています。

月1回発行されるボランティア活動情報誌『めろん』は、2006年に創刊された国際交流協会のニューズレターですが、市民ボランティアと国際交流協会の担当職員からなる「編集グループ」が企画、取材、執筆、編集、印刷、紙面広告の営業まで発行にかかるすべての作業を担っています。『めろん』では市内で行われた国際交流イベントのみならず、行政各課や地域の国際化拠点（近隣の国際交流協会やJICA大阪センター、コリア国際学園等）、多文化な地域づくりにかかわる人物などに幅広く取材を行っています。取材活動は、情報誌の記事のリソースとなって広く市民に地域の国際化状況を伝える源になると同時に、国際交流協会と取材先で出会った人々をつなげ、その後の協働へとつながる橋渡しの役割を担っています。昨

年度は消防署への取材をきっかけにして、市との協働により、やさしい日本語で通報するための「119番カード」の発行が実現しました。

また『めろん』では、国際交流協会のボランティア活動グループのコーディネートを行うボランティアが一堂に会して、月1回開催される「グループ・コーディネーター会議」の様子や、財団法人である国際交流協会の役員会で議論された内容を報告することにより、情報公開の機能も果たしています。

掲載される記事のほとんどは市民ボランティアによって執筆され、編集会議で推敲を重ねます。どのようなビジョンを持って誌面を構成するのか、取材した人物のどのような側面にスポットをあてるのかなど、検討する人々の世代や経験、国籍の違いを背景にしておこる議論は、まさに異文化間のコミュニケーションを通して相互理解を深めていく「共生」のプロセスそのものであり、読者だけでなく参加する人々に多くの学びや気づきを与える場ともなっています。

他にも「何も失くさない日本語教育」をテーマにした人材育成事業や、外国にルーツを持つ子どもの母語支援事業なども実施しています。これらの事業を通して、地域のなかで少数点に在る外国人市民のネットワークづくりや地域社会への参画を支援しながら、多文化共生社会づくりを目指しています。



外国にルーツを持つ子どものための居場所づくり「子どもほっと」

#### 5. おわりに

多文化共生社会を実現していくために、外国人市民への生活支援だけではなく、日本人市民への「多文化共生」に対する意識啓発や理解促進を図っていくことも重要です。外国人市民も日本人市民も、「ともに安心して暮らしていく」ために、今後も継続して、市民や関係団体をはじめ、大学、学術機関、企業、国際交流協会と協働しながら、効果的・総合的な施策を推進し、課題に取り組んでいきたいと考えています。